

追悼 賀川 浩



Photo © KaiSawabe

●ウェブサイト

日本サッカーアーカイブ

<http://archive.footballjapan.jp/>
日本のサッカーの歴史をテキストと、
写真でアーカイブ

賀川サッカーライブラリー

<http://library.footballjapan.jp/>
賀川浩の過去の著作をデータベース化

賀川浩の片言隻句

<http://kagawa.footballjapan.jp/>
最新のサッカーについて語る「ひとこと」

●主な著作/監修

「90歳の昔話ではない。

古今東西サッカークロニクル」(東邦出版)

「サッカー ストライカーの技術講座」(ベースボール・マガジン社)

「ワールドクラスの技術」(ベースボール・マガジン社)

「釜本邦茂・ストライカーの技術と戦術」(講談社)

「釜本邦茂・ストライカーの美学」(東方出版)

「ボールを蹴って50年」(神中サッカー・クラブ)

「サッカー日本代表世界への挑戦」(新紀元社)

「決定版ワールドカップ全史」(ブライアン・グランヴィル著) (草思社)

「ワールドカップ・ストーリー」(ブライアン・グランヴィル著) (新紀元社)

FIFA会長賞

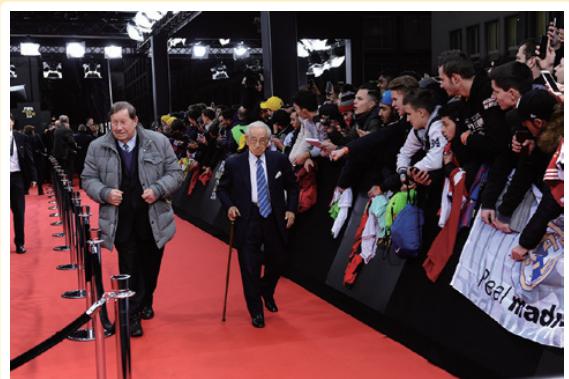


Photo © KaiSawabe

2015年1月12日チューリヒにてFIFA会長賞(FIFA PRESIDENTIAL AWARD)を受賞

FIFA会長賞受賞スピーチ

FIFA President Mr. Blatter, ladies and gentlemen.

I am very proud to be able to attend this wonderful ceremony for the FIFA Ballon d'Or. It is simply the greatest honour to be presented with the prestigious FIFA Presidential Award.

In 1979, Mr. Blatter was part of the FIFA organising committee at the second FIFA World Youth Championship in Japan, where 19-year-old Diego Maradona played.

Unfortunately, my English has not made any progress since that tournament, so I was a little bit hesitant about actually coming to the ceremony today. But my young friends in Japan were very encouraging and said I must come - if only to meet Manuel Neuer, Cristiano Ronaldo, and Lionel Messi. They told me not to forget to bring them back some autographs.

Thank you very much.

ARIGATO

日本語オリジナル原稿

プラッター会長、ご列席の皆さま。

バロンドールの表彰という、年に一度のFIFAのすばらしいセレモニーに出席できて光栄に思います。

またFIFA会長賞というとても大きな賞を頂くことはこの上ない名誉です。

昨年12月にプラッター会長からメールが届いたときには本当に驚きました。

私は62年間ジャーナリストとしてスポーツとりわけサッカーのレポートを書きつづけてきました。74年以来、2014年ブラジル大会までの10回取材をしたワールドカップについても、新聞や雑誌で多くのページを使いました。その量と内容には多少の自負もありますが、すべてが日本語の文章で日本文の記事でした。したがって世界中で読まれることもなく、私の友人の世界的なフットボールジャーナリストにくらべると、日本というローカルの記者にすぎません。

そうした極東の一記者がFIFA会長賞を受けてよいのだろうかと、しばらく考えました。そして日本サッカーが近年に急速に成長したこと、その成長についてメディアが多少の役割を果たし、そのメディアのなかでの最年長者として会長は私を表彰して下さるのだと思うようになりました。

日本のサッカーには長い歴史があり、JFAには1921年から94年の流れもあります。その歴史のなかに優れた記者の先輩やテレビでのサッカー開拓者もおられます。私と同世代にも立派な記者がいただけでなく80歳をこえてなおワールドカップを取材している仲間もいます。

そうした仲間、さらにはどんどんあらわれてくるメディアの後輩たち、つまりは日本のフットボールジャーナリストの最年長者としてこの受賞の名誉をうけることで、FIFAがメディアを大切なものと考えていることを伝えたいと思います。

会長は1979年第2回ワールドユース日本開催、ディエゴ・马拉多纳が19歳で活躍した大会に、FIFAの担当者として大会の運営にあたられました。そのときアーベランジェ会長の記者会見でフランス語の通訳に適任がなく、会長のフランス語をプラッターさんが英語に訳し、その英語を私が日本語で記者たちに伝えたこともありました。そのとき以来、プラッター会長は日本サッカーに対して常に好意的であり、バックアップして下さることをいつも感謝しています。

私の英語はそのとき以来進歩していないので、今日の授賞式参列もいささかちゅうちょしたのですが、私の若い仲間たちから、ノイアーやロナウドやメッシに会えるだけでもいいじゃないか、大スターたちのサインをもらうことを忘れないで、と励まされ送り出されました。

ありがとうございます。

交友録ギャラリー



1979年のワールドユース以来の付き合いの**ブラッター会長**とHOME OF FIFAで再会
Photo © KaiSawabe



セルジオ越後の全面的なバックアップでブラジルワールドカップ取材が実現した



1999年 札幌監督(当時)の**岡田武史**と高知で。1969年に出会ったメガネの中学生は、日本代表監督になった



1979年 ワールドユースのとき、19歳の若き**マラドーナ**と



1980年 来日した**ヨハン・クライフ**にインタビュー



1941年 兵庫県大会で優勝。4試合で**岩谷俊夫**が5点、賀川が6点、合計11得点した記念
※文中敬称略



1979年 **マリオ・ケンペス**にインタビュー



2000年 中国足球学校で指導中のクラマーを訪ねて。ドイツ協会から彼の75歳祝いのユニフォームが贈られてきた



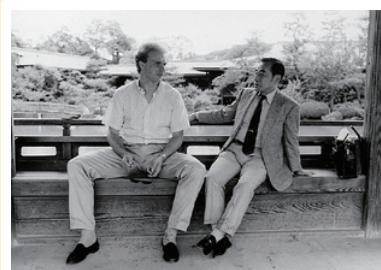
1971年頃 ベルリン五輪のCF川本泰三と釣りに。“シュートの名人”は釣りやゴルフの腕前も相当なものだった



1963年 オーストリア・スキーの大指導者ルディ・マットにはスポーツの技術指導で啓発されることが多かった。彦根城で



1983年 ケビン・キーガンとは何度も会った



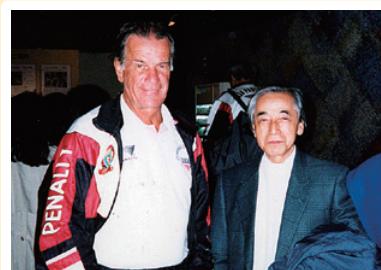
1988年頃 カール・ハインツ・ルムニゲに平安神宮の庭園でインタビュー



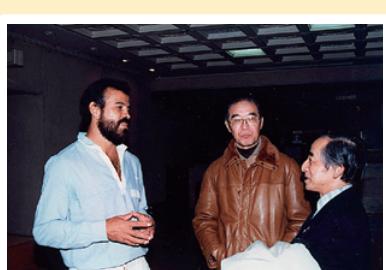
1960年頃 大谷四郎(前列右端)はサッカーでも記者としても今も尊敬する先輩(賀川は同4人目)。記者クラブと関西協会役員の交歓試合で



1983年頃 牛木素吉郎とともに、指導の大家ウィル・クーバー、同夫人、加藤正信、ドクター、バルコム・コーチ、賀川(右から)



1992年 トヨタカップで来日したサンパウロのテレ・サンターナ監督と



1986年 東京でのユニセフチャリティマッチで、パラグアイ代表キャプテンのデルガドと



1994年 米国W杯決勝、パサデナのスタジアムで。中条一雄、国吉好弘と



2008年9月 二人のかガワ。若い日本代表・香川真司と年寄りの記者・賀川(C)セレッソ大阪

※文中敬称略

2010年

第7回日本サッカー殿入り。小倉純二会長からプレートを授与される(C)
Jリーグフォト

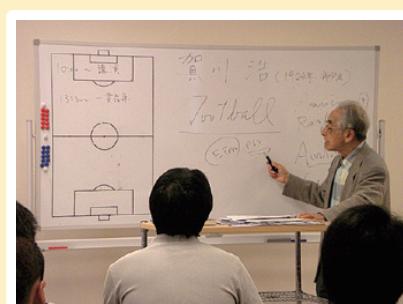


W杯取材後、定年退職	1990年 平成2年	イタリアW杯 優勝..西ドイツ
EURO92(スウェーデン)取材	1991年 平成3年	2002年W杯日本招致委員会設立
Jリーグマッチコミッショナー就任	1992年 平成4年	5月15日、Jリーグ(日本プロサッカーリーグ)開幕 ダイナスティカップ(北京)優勝、アジアで初タイトル
W杯取材	1993年 平成5年	アジアカップ(広島)優勝 阪神・淡路大震災チャリティ
阪神大震災で書庫兼事務所が倒壊	1994年 平成6年	ジャパンフットボールリーグ(JFL)発足 アンドロカップ(イングランド)取材
アンブロカップ(イングランド)取材	1995年 平成7年	米国W杯(優勝・ブラジル)。アジア大会(広島)八強
EURO96(イングランド)取材	1996年 平成8年	阪神・淡路大震災チャリティ FIFAオールスター・マッチ(国立)
Jリーグアウオーズで功労賞を受賞	1997年 平成9年	日本が2002年W杯開催に立候補
「賀川サッカーライブラリー」開設。W杯取材	1998年 平成10年	アトランタ五輪に日本が28年ぶり出場
EURO2000(オランダ・ベルギー)取材	1999年 平成11年	アトランタ五輪に日本が28年ぶり出場
月刊「My Football Chronicle」連載開始	2000年 平成12年	「ジョホールバルの歓喜」イランを破りW杯初出場を決める
週刊「サッカーマガジン	2001年 平成13年	フランスW杯に初出場、一次リーグ敗退(優勝..フランス)
W杯取材	2002年 平成14年	ワールドユース(ナイジエリア)で初の銀メダル
コンフェデレーションズカップ 日韓大会で準優勝(優勝..フランス)	2003年 平成15年	アジアカップ(レバノン)優勝、シドニー五輪八強
日韓W杯で初の16強進出(優勝..ブラジル)	2004年 平成16年	「JFAハウス」誕生、館内に「日本サッカーミュージアム」がオープン
「JFAハウス」誕生、館内に「日本サッカーミュージアム」がオープン	2005年 平成17年	第二回東アジアサッカー選手権開催、二位(優勝..韓国)
JFA殿堂委員会委員に就任(08年7月)	2006年 平成18年	FIFA設立100周年。アテネ五輪で女子代表が初勝利、八強進出
W杯取材	2007年 平成19年	ドイツW杯でグループステージ敗退(優勝..イタリア)
日本サッカーミュージアムの協力のもと「日本サッカーアーカイブ」開設	2010年 平成22年	南アフリカW杯で16強進出(優勝..スペイン)
40年ぶりにW杯を日本で見る。日本サッカー殿堂入り	2011年 平成23年	ドイツW杯でグループステージ敗退(優勝..ドイツ)
最初の著書「90歳の昔話ではない。古今東西サッカークロニクル」を出版	2014年 平成26年	ブラジルW杯取材
ブラジルW杯取材	2015年 平成27年	FIFA会長賞を受賞

※文中敬称略

2009年

ヴィッセル神戸のコーチを対象として、講習会を行なった





1986年

メキシコW杯取材ツアー。前列左から橋本文夫、大住良之、賀川。後列右から2人目・今井恭司、その左・中条一雄



1959年

第1回アジアユースに報道役員として随行。杉山隆一、宮本輝紀らが育つのを見た。左端が賀川、右端が高橋英辰監督

兵庫サッカー友の会設立に携わる 東京五輪五／六位決定戦「大阪トーナメント」を企画	1963年 昭和38年
神戸少年サッカースクール設立に携わる アジア大会(バンコク)取材	1964年 昭和39年
アジア大会(バンコク)取材 アジアユース(日本)取材	1965年 昭和40年
(社)神戸フットボールクラブ創設に携わる 日本初の法人格を持つサッカークラブ、	1966年 昭和41年
初のW杯現地取材、06年大会まで九大会連続 サッカーマガジンで「W杯の旅」連載開始	1969年 昭和44年
サンケイスポーツ大阪編集局長(～84年)	1970年 昭和45年
(ハンガリー、フランス、ドイツ取材) 歐州駆け足ツアーワーク	1972年 昭和47年
W杯取材 コパデオロ(ウルグアイ)取材	1977年 昭和52年
第一回大阪国際女子マラソン事務局長 大阪サンスボ企画社長	1978年 昭和53年
釜本邦茂引退試合を企画運営	1979年 昭和54年
W杯取材 EURO84(フランス)取材	1980年 昭和55年
ユニセフチャリティマッチ「マラドーナの 南米選抜対日本選抜」を企画	1982年 昭和57年
天神祭奉納ドラゴンカヌー大会開催	1984年 昭和59年
欧洲スーパーカップ(ACミラン対 バルセロナ)取材	1986年 昭和61年
日本女子サッカーリーグ(リーグ)開幕	1988年 昭和63年
／平成元年	1989年 昭和64年

1969年

関西協会理事の頃、ボルシア・MGのバイスバイラー監督、シュロツ・コーチによる指導者講習会を開催



1945年

1944年6月に陸軍特別操縦見習士官。飛行訓練の後、1945年4月に特攻第413飛行隊員となる

ヒストリー

賀川浩の歩み

サッカー界の出来事

1935年

小学4年の時、全国書道展で兄・太郎が2等、浩が入選した記念に。左から父・陸蔵、太郎、書道の来田喜八郎先生、浩



1941年

明治神宮大会準決勝、対青山師範。青山ゴール前、中央(向こう側)賀川、左端・岩谷俊夫



1921年 大正10年	大日本蹴球協会(現・JFA)設立。第一回全日本選手権大会(現・天皇杯)
1924年 大正13年	
1929年 昭和4年	日本が国際サッカー連盟(FIFA)加盟
1930年 昭和5年	第二回ウルグアイW杯(優勝・ウルグアイ)
1931年 昭和6年	関東大会(東京)で初優勝(中国と同率一位)
1934年 昭和9年	大日本蹴球協会機関紙『蹴球』創刊号発行
1935年 昭和10年	イタリアW杯(優勝・イタリア)
1936年 昭和11年	ベルリン五輪、スウェーデンを破り八強
1937年 昭和12年	ベルリンの奇蹟(優勝・イタリア)
1938年 昭和13年	フランスW杯(優勝・イタリア)
1939年 昭和14年	
1940年 昭和15年	
1941年 昭和16年	
1942年 昭和17年	
1943年 昭和18年	
1944年 昭和19年	
1945年 昭和20年	
1946年 昭和21年	
1947年 昭和22年	
1948年 昭和23年	
1949年 昭和24年	
1950年 昭和25年	
1951年 昭和26年	
1952年 昭和27年	
1954年 昭和29年	スイスW杯(優勝・西ドイツ)
1956年 昭和31年	アジアサッカー連盟設立、加盟
1958年 昭和33年	メルボルン五輪出場も一回戦敗退(優勝・ソ連)
1960年 昭和35年	スウェーデンW杯(優勝・ブラジル)
1962年 昭和37年	ローマ五輪(優勝・ユーゴ)
1963年 昭和38年	西ドイツからデットマール・クラマー・コーチを招聘
1964年 昭和39年	チリW杯(優勝・ブラジル)
1966年 昭和41年	
1968年 昭和43年	
1970年 昭和45年	
1972年 昭和47年	
1974年 昭和50年	
1976年 昭和52年	
1978年 昭和54年	
1980年 昭和58年	
1982年 昭和60年	
1986年 昭和64年	
1990年 昭和68年	
1994年 昭和72年	
1998年 昭和76年	
2002年 昭和80年	
2006年 昭和84年	
2010年 昭和88年	
2014年 昭和92年	
2018年 昭和96年	
2022年 昭和100年	

1940年

神戸一中サッカー部部旗の寄贈記念。前列左端が父兄会代表賀川陸蔵、左から4人目が池田多助校長、右端・賀川



1931年

神戸の熊内町の同胞幼稚園卒業式で。後列左から3人目

